

誰も知らない「赤ん坊になる前」のこと。(せいめいのれきし)

神秘の扉『胎児の世界』を開けた三木成夫(みき・しげお)先生は、胎児の劇的な変身は太古の海に誕生した生命の進化の悠久の流れを再演していると説く。さらに、その『胎児の世界』を『密室』と言う増崎英明(ますざき・ひであき)先生は、超音波断層法や遺伝子解析をはじめとするさまざまな診断、検査技術の進歩によって「胎児を生きのまま見る」ことができても、なお「胎児は未知なるものであり続ける」と『胎児のはなし』で語っています。太古の海で誕生した生命の歴史をたどり「生命とは何か」を見つめる本を紹介していきます。

●最相葉月 増崎英明 『胎児のはなし』 ミシマ社



目次

はじめに 最相葉月 003

第一章 みんな胎児が見たかった
—胎児研究の歴史—
アダム派とイブ派がいた 012
子宮の中の生きている胎児を初めて見たのは日本人 021

第二章 超音波に一目惚れ
—増崎英明、産婦人科医になる—
魚群探知機が超音波診断に? 030
十人きょうだいの十番目 038
帝王切開を見た増崎少年 043
胎児はなぜ頭が下にあるのか 050

第三章 胎児—この未知なるもの
なぜ 3000 グラムで生まれるのか 062

わが子の出産 071
羊水はどこからくるのか 075
羊水が濁ると要注意 079
便と力の入れ方が一緒 084

第四章 胎児を救う!
—「人」として扱う医療を—
胎児の声が聞こえた! 090
胎児を手術する 092
スクリーニングで病気を発見 100
中絶について 102
宗教上の理由 110
それでも続けた理由 112

第五章 胎児の表情七変化
—みんな生まれる前から笑ってた—
胎児は泣いて笑って夢を見る 118
赤ちゃんを左側に抱く理由 124
胎児の表情を観察する 128
表情と脳の関係 134
ゴジラみたいな呼吸様運動 141
膈を通るとき肺泡液を絞る 148

第六章 胎児の世界
—最新の技術と研究でわかったこと—
胎盤の不思議—1+1=1? 154
胎児のDNAを調べる 158
出生前診断は受けるべきか 164
NIPTと羊水検査はセット 168
ダウン症の子のこと 175
お父さんとお母さんはDNAでつながってる!?

精子のY染色体が女性に入る? 187
母はなぜ胎児を拒絶しないか 194
最初に大事なものは肺 197

第七章 妊娠・出産の世界
—長年の研究と経験でわかったこと—
つわりとは何か 202
帝王切開と自然分娩の違い 206
お産はリスクが伴うもの 216
水中出産のリスク 224
双子問題 228
長崎県は母乳を遮断してがんを防いだ 230
酒とたばこ 240
無痛分娩について 243

第八章 周産期医療最前線
—大学病院で今何が行われているか—
胎児治療の最前線 248
イギリスと日本の違い 255
生殖補助医療技術(ART)について 261
生殖補助医療技術の話しにくいこと 267
高齢出産のこと 277

終章 私たちはどこから来て、どこへ行くのか
増崎先生の性教育 284
水の中の人生、空気の中の人生 292
君たちはなぜゼロ歳で生まれたのか 300
男と女の役割分担 303
胎児の未来 310
おわりに 増崎英明 315

180

ビヨンド・エジソン ~12人の博士が見つめる世界~ 最相葉月 ポプラ文庫

人はなぜ、科学者になるのだろうか。いつ、どこで科学と出会うのだろうか。たとえば、子どものころに発明王エジソンの伝記を読んだことがきっかけで科学者を目指したという人はいるのだろうか。科学の道に進んだとして、どのようにして研究テーマを生涯にわたって探究し続ける意志の力はどこから生まれるのだろうか。さまざまな紆余曲折を経て、研究テーマを追い続ける12名。世界を舞台に活躍する科学者の人生に迫る! (12人それぞれ出逢う本が紹介されていて興味深い。)

目次

第一章 日本生まれの薬でアフリカ眠り病に挑む 15	第七章 ウイルスが紡ぐ生命の物語 137
第二章 恐竜少女が首長竜の新種と出会う 35	第八章 黄砂は「空飛ぶ化学工場」 159
第三章 世界の乾燥地で食糧生産の向上を目指す 55	第九章 人間とコンピュータの対話をデザインする 181
第四章 災害軽減のためにできること 73	第十章 分子を生きのまま見る 203
第五章 南極の「空気の化石」に地球の歴史を見る 99	第十一章 はやぶさは操縦できる宇宙船 219
第六章 言葉の不思議を探究する 117	第十二章 アルツハイマー病の新発見を治療につなげる 243



●三木成夫『胎児の世界 人類の生命記憶』 中公新書

まだ目もあかない赤ん坊が、突然、何かに怯えて泣き出したり、何かを思い出したようににっこり笑ったりする。母の胎内で見残した夢の名残を見ているのだという……。私たちは、かつて胎児であったその間羊水にどっぷりつき、子宮壁に響く母の血潮のざわめき、心臓の鼓動のなかで、劇的な変身をとげたが、この変身劇は、太古の海に誕生した生命の進化の悠久の流れを再演する。それを、ふと思ひ起こすことがある……。(『胎児の世界～人類の生命記憶～』三木成夫 中公新書より)



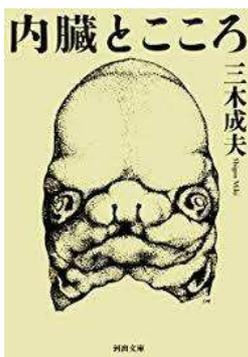
目次

- まえがき
I 故郷への回帰— 生命記憶と回想 3
民族と里帰り 4
「椰子の実」の記憶 4

- 絹の道 12
里帰りの生理 19
母乳の味 26
母乳と玄米 26
哺乳動物誌 32
味覚の根原—「憶」の意味 39
羊水と古代海水 47
出産 47
脊椎動物の上陸 53
いのちの塩 62
II 胎児の世界— 生命記憶の再現 71
ニワトリの四日目 72
墨汁の注入 72
四日目の出来事 80
上陸の形象 88
胎児の発生 99
胎児の顔 99
受胎—か月の像 107
おもかげ— 原形について 118

- 再現について 125
個体発生と宗族発生 125
奇形の意味するもの 135
胎児の夢 143
III いのちの波— 生命記憶の根原 153
食と性について 154
ヤツメウナギの変態 154
植物のメタモルフォーゼ 161
食と性の位相交換 168
内臓波動 176
いのちの波 176
万物流転— リズムの本質 182
胎児と宇宙 188
永遠周行 197
東洋の「道」 197
遷宮の意味 203
母なる海 210
あとがき 221
参考文献 224

●三木成夫『内臓とこころ』 河出文庫



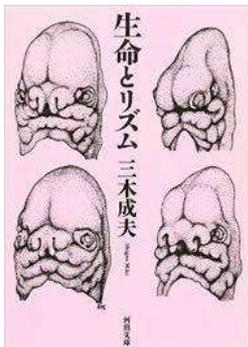
目次

- I 内臓感覚のなりたち
はじめに 10
1 膀胱感覚 12
「オシッコ!」12
快と不快 17
内臓不快 21
2 口腔感覚 27

- 顔と口と舌 27
正常な哺乳 34
“なめ廻し” 39
3 胃袋感覚 45
生活のリズムと空腹感 45
夜型と朝型 51
リズムと年リズム 58
II 内臓とこころ
1 内臓波動— 食と性の宇宙リズム 65
内臓は小宇宙 65
食と性 70
生命と宇宙リズム 75
2 内臓系と心臓 80
神経と血管 80
“はらわた”を見直す 87
こころとあたま 92
3 心のめざめ— 内臓波動と季節感 97
生物の二大本能 97
動物のこころとヒトの心 100
季節感とこころ 104

- III こころの形成
1 指差し・呼称音・直立— 満一歳 113
よみがえる生命記憶 113
指差し 118
立ち上がり 123
2 言葉の獲得— 象徴思考 131
“もの”と“なまえ” 131
言葉の起源 134
声— 鯉呼吸のなごり 139
3 三歳児の世界 146
天翔ける象徴思考 146
概念思考— 自己の誕生 151
三歳児のこころ— 桃源郷の世界 155
IV 質問に答えて
夜型の問題— かくされた潮汐リズム 164
再現について— 形態学の実習 169
V 補論
胎内にみる四億年前の世界 175
忘れられた二五時— バイオリズムと眠りのメカニズム 184

●三木成夫『生命とリズム』 河出文庫



目次

- I 生命とはなにか— 生命論 9
だれが人間を創ったのだろう
— 受胎後三十二日目、胎児は変身をはじめ。魚類から両生類、そして爬虫類へ
と…… 10

- 生について— 看護本来のすがた 13
人間の精神と自然の破壊 20
人間生命の誕生 23
胎児の世界とくいのちの波> 36
II からだと健康— 保健論 65
生活を左右する「体内時計」その1
— 動物も人間も「潮」と「光」の懐中時計をもっている 66
「ツボ」の比較解剖学的考察— 東西医学の源流について 69
「上虚」の医学的考察について 77
上腹部(みぞおち)の構造とその機能について 91
鯉呼吸から肺呼吸への歴史 108
「お喋り」の起原— 呼吸の医学から 124

- 呼吸の波— 宇宙リズムとの交流 130
呼吸について— 仕事と息抜きの関係 145
対談 現代の子の生活リズム— 学業不振の原因がここに? 159
リズムのずれによるからだの「不調」
— 一日リズムの分析 176
夜型人間の生理学的構造 184
「イッキ」飲み際に際して 190
III 先人に学ぶ— 人間論 193
生活を左右する「体内時計」その2
— 中生代の生命記憶が人間にも冬眠を要求している 194
ゲーテと私の解剖学 197
上野の杜の生物学— 『ゲーテ全集』に
よせて 204

植物的および動物の一アリストテレスに学ぶ 211
 思いつくままに—浦良治先生の思い出 218
 「古代」に注がれる眼—井尻・今西の比較解剖試案 222

堀越千秋くんに 229
IV 生命形態学への道—形態論 235
 左脳診断から右脳診断へ—病者の顔を一瞬で鑑別するのは左目。心音の微妙な差を聞きとるのは左耳。 236

脾臓の過去 239
 「原形」に関する試論—人体解剖学の根底をなすもの 247
 ゲーテの形態学と今日の人体解剖学—現代科学の岐路に立って 270

●齋藤孝 『呼吸入門』 角川文庫

日本人は、心身を安定させる技としての息の仕方を忘れ、キレやすい身体になってしまった。今こそ、日本人の優れた「呼吸」の仕方を蘇らせよう。丹田呼吸法、禅の瞑想といった高度な技、数千年の叡智を、誰にでもできるシンプルな「型」に凝縮した齋藤式呼吸法を実践することで、精神が安定し、集中力が増し、疲れにくくなる。呼吸を通じて日本文化の神髄に迫る、齋藤身体論の集大成、感動の名著！



目次

第一話 なぜ「息」を考えるのか
 日本には「息の文化」があった 10
 身体文化のメルトダウン 13
 日本人は息の仕方を忘れた 15
 坐り方にも文化がある 17
 心を安定させるには、まず身体のぶれをとる 18
 衣服がからだの構えを作っていた 22
 身体で感情をコントロールする技術 24
 日本は身体文化の宝庫 27

第二話 呼吸力とは何か
 人物の器は息の力で判断されていた 32
 呼吸力の要は二つある 35
 動作と呼吸が合っていると、心地よい快感が生まれる 36
 疲れの回路をシャットアウトする感覚 39
 プレッシャー時に動かないための呼吸 41
 息が長く続くのは、見事なことだった 42

呼吸を全うさせるということ 44
 理想は赤ちゃんの呼吸 46
 どの瞬間にも無駄な力みのない身体 49
 <力みの避雷針>は臍下丹田 51
 「三・二・十五」の齋藤式呼吸法 54

第三話 息と心との関係
 吐くことで満ちてくる安定感 58
 ここにある自分と、それを見つめている自分 61
 セルフ1の壁を打ち破る 62
 からだを外側からとらえ直す 65
 呼吸と死生観 67
 日本人の宗教心の基盤には呼吸があった 70
 私を一度投げ出す心 72
 共鳴するからだは、「持ち運び可能なミニ寺院」 75
 ハミングで分かる呼吸の響き 77
 長くゆったりした呼吸でセロトニン神経系が働く 79
 攻撃衝動を抑えるには 81
 からだを揺さぶるリラクセス法 83

第四話 日本は息の文化だった
 息の芸に魅せられる 88
 能の呼吸 90
 呼吸が空間を支配する 92
 笑いや気合で「息を放つ」 94
 途切れることのない「読経」の響き 96
 大勢の人間が力を合わせるには息を合わせる 97

第五話 教育の基盤は息である
 戦後の生活スタイルの激変 102
 身体文化の礎は、こうして切り捨てられた 104
 「縛解一如」 107
 身体軽視の結果ぼっかりと空いた穴 109

本当に教えるべきことは 110
 呼吸の浅い「ムカツク」身体 113
 呼吸で学ぶ構えを作る 115
 一息を鍛えながら、集中暗記をする 117
 生きる時間の密度が濃くなる 120
 日本人は型を創出する天才だった 113

第六話 危険な呼吸法・安全な呼吸法
 私の模索時代 130
 不安な人たちの自分探し 131
 身体に無知すぎたために 134
 広く知らしめることの意味 137
 私は「気」について語らない 139
 「気」にのめり込む危険性 141
 呼吸はすべての活動に通ずる最大公約数 143
 「三・二・十五」が呼吸の型 145
 溜めるコツ、ゆるやかに吐くコツ 147
 誰にでもできる呼吸法 149

第七話 息を感じて生きる
 息はセンサー 154
 日本語の中の息づかい 155
 息の間合いを探り合うことが好きな国民性 157
 間のつかみ方を訓練する 159
 表現の身体をなぞる 163
 息を同調させるという技 166
 「触れる、触られる」からの解放 168
 指圧・マッサージのコツ 171
 <積極的受動性>という構えを持つ 173
 呼吸とセックス 175
 「呼吸させられる」という感覚 178
 息を感じて生きる喜び 180
 あとがき 183
 文庫版あとがき 185

自然体のつくり方 齋藤孝 角川文庫

自然体は、単にリラックスした軽い構えではない。粘り強い下半身に支えられた技である。かつては、日々の労働の中で自然につくられた自然体の土台。現代生活では、意図的に身体をつくり直さなければ自然体は得られない。力強い身体、ふんばりの利く足腰、しなやかな所作をどう取り戻すか?おんぶやかべ押し、すり足に呼吸法など、場になじむ自然な身体の具体的なつくり方を、あますところ無く描いた齋藤身体論の決定版。(写真や図などがあり身体の動かし方がわかる。)

目次

プロローグ 「自然体」から「レスポンスする身体」へ 10

第1部 自然体のつくり方 41
 1 自然体とはどういうものか 42
 2 足腰のつくり方 52
 3 足裏感覚 78
 4 上半身のつくり方 91
 5 肚の感覚 109
 6 方向性をもった感覚 118

第2部 レスポンスする身体 133
 1 コミュニケーションできる身体とは 134
 2 息を合わせる 153
 3 中心軸をやりとりする 168
 4 欧米流のパブリックな身体技法 179
 あとがき 198
 文庫版あとがき 201



『選べなかった命—出生前診断の誤診で生まれた子—』

河合香織 文藝春秋



この女性は出生前診断を受けて、「異常なし」と医師から伝えられたが、生まれてきた子はダウン症だったという。函館で医師を提訴した女性に私は会わなければならない。母親は男児を出産。男児はダウン症であり、ダウン症に起因する肺化膿症や敗血症のため約三カ月後に亡くなった。
(本文プロローグより)

「出産するか人工妊娠中絶をするかを自己決定する機会を奪われた」「被告医院の債務不履行がなければ、天聖が死の苦痛を味わうことなどありえなかったことは明白である。」ことに対する感謝料…。天聖はほんとうに生まれられない方が苦痛が無かったのか…。誰の視点で考えるべきか…。「命の選別」「命とは何か」生命倫理とともに、「医学と法の矛盾」にいろいろな立場からの見解があり、命とは何かをより深く考えさせられる。

目次

プロローグ 誰を殺すべきか？

その女性は出生前診断を受けて、「異常なし」と医師から伝えられたが、生まれてきた子はダウン症だったという。函館で医師を提訴した彼女に私は会わなければならない。

第一章 望まれた子 18

「胎児の首の後ろにむくみがある」。ダウン症の疑いがあるということだ。四十一歳の光は悩んだ末に羊水検査を受ける。結果は「異常なし」。望まれたその子を「天聖」と名付ける。

第二章 誤診発覚 30

「二十一トリソミー。いわゆるダウン症です。」小児科医の発した言葉に、光は衝撃を受ける。遠藤医師は、検査結果の2枚目を見落としていた。天聖は様々な合併症に苦しんでいた。

第三章 ママ、もうぼくがんばれないや 45

ついに力尽きた天聖を光は我が家に連れて帰る。「ここがお兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒に寝る寝室だよ」。絵本を読み聞かせ、子守唄を歌い、家族は最初で最後の一夜を過ごす。

第四章 障害者団体を敵に回す覚悟はあるのですか？ 56

天聖が亡くなると遠藤医師はとたんに冷たくなったように夫妻は感じた。弁護士を探すが、ことごとく断られる。医師から天聖への謝罪はなく、感謝料の提示は200万円だった。

第五章 提訴 68

それは日本で初めての「ロングライフ訴訟」となった。両親の感謝料だけでなく、誤診によって望まぬ生を受け苦しんだ天聖に対する損害賠償を求めるものだった。

第六章 母体保護法の壁 80

母体保護法ではそもそも障害を理由にした中絶を認めていない。したがって提訴は失当。被告側の論理に光は、母体保護法が成立するまでの、障害者をめぐる苦悶の歴史を知る。

第七章 ずるさの意味 101

光の裁判を知って、「ずるい」と言った女性がいた。彼女は羊水検査を受けられなかったのでダウン症の子を産んでしまった、と提訴したが、その子は今も生きている。

第八章 二十年後の家族 113

京都で二十年以上前にあったダウン症児の出産をめぐる裁判。「羊水検査でわかっていたら中絶していた」と訴えた家族

を訪ねた。その時の子どもは二十三歳になっているという。

第九章 証人尋問 131

裁判では「中絶権」そのものが争われた。「中絶権」を侵害され、子どもは望まぬ生を生きたとしたが、そもそも「中絶する権利」などない。そう医師側は書面で主張した。

第十章 無脳症の男児を出産 146

苦しむだけの生であれば、生そのものが損害なのかを光の裁判は問いかけた。一方、この女性は、子どもが無脳症であるとわかりながら、中絶をせずにあえて出産していた。

第十一章 医師と助産師の立場から 155

病院は赤ちゃんの生存の決定を家族に委ねるようになっていく。障害をもって生まれた子は、何もしなければ死ぬ子も多い。だが現場の助産師は、そうした中、疲弊している。

第十二章 判決 168

判決は被告に一〇〇〇万円の支払いを命ずる原告側の勝訴。しかし、それは、「心の準備ができなかった」夫妻への感謝料だった。光は「天聖に謝って欲しかった」と肩をふるわす。

第十三章 NIPTと強制不妊 178

優生保護法下で、強制的に不妊手術を受けた人たちが、国家賠償訴訟を始めて、全国的な広がりとなった。私は最初に提訴した宮城県原告の女性を訪ねる。

第十四章 私が殺される 199

「なぜ、ダウン症がここまで標的になるのか」。NIPTによってスクリーニングされることに「私が殺される」という思いで傷ついている人たちがいる。

第十五章 そしてダウン症の子は 219

ダウン症でありながらも日本で初めて大学を卒業した岩本綾は言った。「赤ちゃんがかわいそう。そして一番かわいそうなのは、赤ちゃんを亡くしたお母さんです」。

エピローグ 善悪の先にあるもの 225

「どうして私のことをかわいそうって言ったのでしょうか……」。ダウン症当事者の岩本の言葉を伝え、光は涙をためながら言った。

あとがき 238

主要参考文献 244

『ウスケボーイズ 日本ワインの革命児たち』 河合香織 小学館文庫

「みんな一生懸命勉強され、最新の醸造技術を学んだでしょう…しかし果たしてそれで…世界のワインに匹敵するものが造れるでしょうか。若い方々は自力で道を開いていかなくちゃいけない」「高い志を持ってワインを造りなさい。今までのワイン醸造の常識に従ってワインを造ればいいワインが出来るかもしれないが、人を感動させられるワインは出来ない。常識を一度捨てなさい」日本のワイン造りを主導した醸造家・麻井宇介(うすけ)の教えを受けた3人の「ウスケボーイズ」が日本のオリジナルワイン造りを目指し、葛藤しながら成功していくまでの物語。



●『せいめいのれきし』

バージニア・リー・バートン/文・絵 いしいももこ/やく 岩波書店



考えられないほど大昔、太陽がうまれました。そしてこの太陽は、何億、何兆という星の集まりである、銀河系のなかの、ひとつの星です。この銀河系は、宇宙のひろいひろい空間を、ぐるぐるまわっている。何億、何兆もの銀河のひとつで、わたしたちは天の川とよんできました。わたしたちの太陽は、これらの星のなかで、いちばん大きくもなく、いちばん小さくありませんが、わたしたちにとってはいちばんだいじーというわけは、太陽の光と熱がなかったら、この地球では、何もいきていけないからです。(本文 P8 より)

さあ、このあとは、あなたのおはなしです。主人公は、あなたです。ぶたいのよういは、できました。時は、いま。場所は、あなたのいるところ。いますぎていく 1 秒 1 秒が、はてしない時のくさりの、あたらしいわです。いきものの演じる劇は、たえることなくつづき一つもあたらしく、いつもうつりかわって、わたしたちをおどろかせます。(本文 P76 より) ※幼稚園生対象の読み聞かせ本の一つです。

場面

プロローグ

- 1 ば: わたしたちの銀河系 8
- 2 ば: わたしたちの太陽とその惑星 10
- 3 ば: わたしたちの地球と月 12
- 4 ば: さいよにできた岩、火成岩 14
- 5 ば: 変成岩ができる 16
- 6 ば: 堆積岩ができる 18

1 まく

古生代

- 1 ば: カンブリア紀の海のいきもの 20
- 2 ば: オルドビス紀の海のいきもの 22
- 3 ば: シルル紀の海へのいきもの 24
- 4 ば: デボン紀の海へのいきもの 26
- 5 ば: 石炭紀の沼地のいきもの 28
- 6 ば: ペルム紀のさばくのいきもの 30

2 まく

中生代

- 1 ば: 三疊紀の川のいきもの 32
- 2 ば: ジュラ紀の沼地のいきもの 34
- 3 ば: 白亜紀の海と陸のいきもの 36
- 4 ば: 白亜紀の平原のいきもの 38

3 まく

新生代

- 1 ば: 暁新世・始新世の森のいきもの 40
- 2 ば: 漸新世の低地のいきもの 42
- 3 ば: 中新世の平原のいきもの 44
- 4 ば: 鮮新世のいきもの 46
- 5 ば: 氷河時代のいきもの 48

4 まく

にんげんの時代

- 1 ば: 有史以前のにんげん 50

- 2 ば: 有史以後のにんげん 52

- 3 ば: アメリカ初期の移民のひとたち 54
- 4 ば: 農業のさかんだったころの生活 56
- 5 ば: 農場をすていくひとたち 58

5 まく

現代のひとびとの生活

- 1 ば: 夏のいとなみ 60
- 2 ば: 秋のいとなみ 62
- 3 ば: 冬のいとなみ 64
- 4 ば: 早春のいとなみ 66
- 5 ば: ある春のあさ 68
- 6 ば: その日の午後 70
- 7 ば: その日の夜 72
- 8 ば: あたらしい日の夜あけ 74

エピソード 76

●柳澤桂子『卵が私になるまで—発生のお話—』新潮選書

人間は好奇心の旺盛な動物です。大昔から、いろいろなことに興味をもってきました。自分のまわりにいる動物にももちろん興味を示しました。この本のテーマである「動物の形はどのようにしてできるか」という問題にも関心をもちました。これは「発生学」と呼ばれている学問の分野です。発生学が「動物の形の問題」としてはっきりと認識されるようになったのはずっとこのちのことで、発生学は「どのようにして赤ちゃんができるのだろうか」という疑問から出発しました。私たちはやっと「動物の形がどうしてできていくのか」という謎を解く手がかりをつかみました。カエルはなぜカエルの形になるのでしょうか。ネズミはなぜネズミの形をしているのでしょうか。そのからくりを、これからさぐっていきたいと思います。(本文はじめに より) ※小学生を対象に夏期講習会で使用しているテキストです。



目次

はじめに—すべての動物は卵から 9

1 ウニの物語 17

おとなのウニができるまで 細胞の住所録

2 イモリの物語 33

神秘的な発生学 〇・〇一ミリの細胞の大移動 イモリの胚をしぼる

3 手の物語 53

前足はどのように生えてくるか ニワトリの翼細胞に印をつけてみると「多指症」のニワトリ

4 遺伝子と発生 66

DNA とタンパク質 遺伝子からみた分化 遺伝子スイッチを入れたり切ったりする方法

5 あるアメーバの物語 84

発生を止めてみる 遺伝子スイッチの入り方

6 ショウジョウバエの物語 92

変わりものを利用する 卵からショウジョウバエをつくる 胚の中の「物差し」まず体の軸をきめる 体節を区切る 体節の中を整える ホメオボックス

7 カエルの物語 127

中胚葉細胞を誘導する物質は? カエルの軸をきめる

8 マウスの物語 139

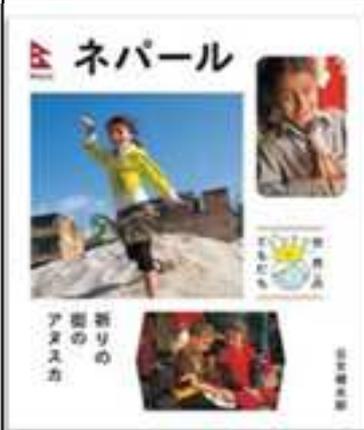
ヒトを視野に入れながら マウスが生まれるまで 尻尾のないマウス T 突然変異マウスの尾はなぜ短くなるか マウスのホメオボックス遺伝子

おわりに—三五億年という時間 181

「世界のともだち ネパール」 07

“祈りの街のアヌスカ”

写真・文 公文 健太郎 / 偕成社



ネパールの首都、カトマンズから東に30km。たくさんのお店が並ぶバネバという街に、7歳のアヌスカは暮らしています。アヌスカの家族はお父さんのアショク(32歳)、お母さんのゴマ(26歳)、弟のアルジュン(4歳)の4人。アヌスカは優しいお父さんが大好きです。アルジュンは泣いてばかりで、いつもお母さんに甘えています。アヌスカが住む街のはずれのアパートは、台所と寝室の2部屋だけ。少し狭いですが、空色の壁がお母さんの自慢です。アヌスカのお父さんとお母さんは洋品店を営んでいます。ジーンズやワンピース、Tシャツ、帽子やベルトなどが並ぶ小さなお店です。細長い店内には商品があふれ、洋服で出来た小さなトンネルのようです。隣のお店も、またその隣のお店も、通りは皆、洋品店ばかりです。アヌスカは小さな時からこの洋品店で育ってきたので、お店の仕事はお手のもの。今では1人で店番も出来るようになりました。一番難しいのは、お客さんを見て値段を決めること。仕入れ値に、高く買ってくれそうな人には200ルピー、そうでない人には100ルピーを足して売ります。ネパールには、サリーやクルタ・スルワルという伝

統的な衣装がありますが、若い子達は洋服を着るようになりました。お店の前はバスターミナル。屋根まで超満員のバスが通り過ぎます。朝5時、アヌスカの1日は水くみから始まります。アパートには共同の水道がありますが、水が出ないことや、にごっていることが多いです。弟を家に残し、お父さん・お母さんと一緒に30分歩いて、湧き水を汲みに行きます。ちょろちょろと出る湧き水を水がめにためる間に歯を磨き、顔を洗い、汲みたての水をひと口。帰宅後、弟を起こしてから制服に着替えます。宿題は学校に行く前に急いで済ませます。夜は毎日のように停電してしまうからです。アヌスカは学校へ行くことも勉強も大好きです。「頑張って勉強をして、私も先生になりたいの」国語(ネパール語)、算数、体育、理科、社会、道徳、コンピューターなど、たくさんある科目の中で国語が得意です。朝と夜はしっかり食べますが、お昼ご飯は軽食です。学校ではみんな好きなものを家から持って来ます。アヌスカはドーナツを持って来ました。チュラという、米を叩いて乾かしたものと、タルカリという野菜などを炒めたおかずが定番のお弁当です。お昼ご飯の後はお昼寝の時間。机の上に伏せて、目をつぶります。休み時間にはみんな外へ駆け出します。アヌスカの学校は校庭が狭いので、クラスごとに休み時間をずらして使っています。自然と喧騒が混じり合うネパールの中で、アヌスカの目はいつも輝いています。そんないつか友だちになるかもしれない世界の友達の日常をぜひ覗いてください。

「世界のともだち ケニア」 08

“大地をかけるアティエノ”

写真・文 桜木 奈央子 / 偕成社



ケニア西部にある世界で3番目に大きい湖、ビクトリア湖。この湖のそばにある小さなソウマ村で、12歳のアティエノは家族と共に暮らしています。薪拾いや牛の世話を立派にこなし、お姉さんや友達とおしゃべりする時間が大好きな小学生です。お父さんはビクトリア湖で漁師をしながら、畑ではキャッサバイモやパイナップルを育てています。物を作るのが得意で、中庭のベンチや台所で使う椅子もお父さんの手作りです。お母さんは露店でマンゴーなどの果物を売る仕事をしています。掃除や洗濯など、家の仕事も忙しく休む暇がありません。お兄ちゃんのモーゼスは自転車で2時間かけてセカンダリースクール(日本の中学~高等学校に当たる)へ通っています。お姉ちゃんのアグネスは小学校の最終学年に在籍中。アティエノといつもいっしょに行動し、2人で家のお手伝いをします。やんちゃな弟のオモロと、かわいい妹のアウマのお世話はアティエノの役割です。「アティエノ」はこの地域に住むルオ族の言葉で「夜に生まれた女の子」という意味です。ルオ族の人々は、生まれた時の時間や状況から子供の名前を付けるのです。アティエノはルオ語と学校の授業で使う英

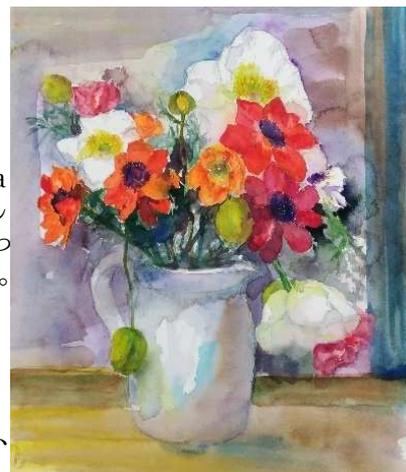
語、国語として習うスワヒリ語の3つの言葉を使います。1番話せるのは家で使うルオ語ですが、英語を勉強するのが大好きです。「いろんな土地を旅してみたいし、たくさん本も読みたいから、英語が必要な」と話していました。教科書はクラスの全員で回し読みして使うので、家には持って帰れません。「家でゆっくり英語の教科書を読みたいな」とアティエノは思っています。放課後、薪拾いをしながら家へ帰ってきます。時には、2時間位回り道をしてたくさんの薪を集めることもあります。夕方はお手伝いが忙しいので、宿題は夕食後にランプの明かりのもとで行います。村で売られている商品には値段がないので、値段を決めるための交渉が必要です。挨拶から始まり、会話を楽しみながら買い物します。商売を通じて色々な人と会うことは村の人達にとって人生の楽しみ1つなのです。村で売るマンゴーの仕入れるためにお母さんとキムスという町へやってきました。アティエノは真剣な表情で町の生地屋さんで布を選んでいました。町で買ってもらった布で、村の仕立て屋さんで服を作ってもらいます。こんなことは何年かに1度の特別なことです。仕立てた服は少しずつ、直しながら何年も着るので、大きめに作ってもらいます。「学校の勉強や家のお手伝いから、色んなことを学びたい。家族といっしょにいる時間は、とても楽しいし!」と純粋でひたむきな笑顔を見せるアティエノ。いつか出会うかもしれない世界の友だちの日常が多彩な写真と共に紹介されています。

□メキシコ旅行 3日目 ~2019年5月2日(木)~

レフォルマを走る2階建てのメトロブス*に乗って、昨日行けなかった、Museo Antropologia (国立人類学博物館)へ。今日はメキシコ到着後初のウィークデー。空港周辺の変わらないメキシコとは対照的な、進化したメキシコに出会う。ビジネス街のレフォルマ通りには、かつてはなかった2階建てのメトロブスが走り道の両側は自転車専用レーンができていて、自転車で通勤する人がひっきりなしに行き交っている。5年前のメキシコでは、まだまだ自転車を利用する人は少なく、エコビシと呼ばれるシェアリングサイクルのサービスが始まってまだ間もない時期であった。車の交通量の多いメキシコシティで、自転車に乗ることは危ないというイメージだったが、今ではすっかり通勤手段のひとつとして定着しているようであった。また、レフォルマ沿いには新しい高層ビルがいくつもできていて、その周辺は日本の複合ビルを思わせるような、小ざれいな空間が用意されている。そう、エリアによって表情が全く異なるのがメキシコ。貧富の差も激しく路上で物を売る人がいる一方で、スーツに身を包み、高級車に乗って郊外の大邸宅から通勤するお金持ちもいる。Museo Antropologiaは、私にとって2回目の訪問。前回の訪問時には、メキシコの歴史がいっぱい詰まったこの博物館に深く感動したのだけれど、今回はみんなの時差ボケがマックスで、注意力散漫。ゆっくりまわる元気がない。おまけに携帯電話が落ちて画面にひびが入り、気分が落ち込む。日本で博物館に行くとき、いつもじっくり見学してまわる息子をみて、主人はこの博物館に連れて行くのをとても楽しみにしていた。でも、時差ボケにはかなわない。早々に退散し、隣接するチャプルテペック公園のスターバックスでお昼を食べた。その後はzona rosaのお土産市場によって、ガイコツ**のマリアッチの置物を購入。なんとなく中休みみたいな一日を今日は過ごした。そして、夜の10時過ぎになってようやく明日の夜に昔の職場のみんなと食事ができるという朗報が届いた。

*メトロブス：2車両をつなげて走る連節路線バス。車道にも専用レーンが設けられていて一般の車両はこのレーンを走行できないようになっている。

**メキシコには日本のお盆にあたる「死者の日」があり、この日にはガイコツを模したお菓子や置物が街中にあふれる。メキシコ人はこの日を嘆き悲しむというより、死者とともに明るく楽しく過ごす日と位置付けているため、カラフルで楽しい表情のガイコツの置物が多く売られている。



□メキシコ旅行 4日目 ~2019年5月3日(金)~

朝の7:00に宿泊先を出て、Segundo Piso (セグンドピソ)*にのって一路南へ。車中から見えるメキシコの風景、道路表示板の地名を見ながら、記憶の遠いところにあった、メキシコ在住当時の普通の生活の一場面一場面が蘇ってくるような感覚を味わう。週末に買い出しに行き、いつも長い行列に並んで、疲れ果てて帰ってきたこと。遊びに行った帰り道、明日からまた長い一週間が始まると思いつつながら、まだ幼かったナオキと車の後部座席からこの風景を眺めていたこと…今回のメキシコ訪問が決まった時、私は息子にメキシコの小学校に一日体験入学をさせてあげたくて、いろいろ探してみたものの、結局受け入れ先を見つけることはできなかった。それならせめてと、ナオキの母校であり(幼稚園から高校までのメキシコの私立一貫校。日本人学校も同じ敷地に併設されている、世界的にも珍しい学校)私の昔の職場であるメキシコの学校で働く元同僚にお願いして、今回母校を訪問するチャンスをいただいた。今日はその学校で、幼稚園主催による学院朝礼が行われるという。学校の受付で用件を伝え中に入ると、幼稚園から高校までの全生徒、日本人小学校、中学校の全生徒はすでに会場に着席しており、多くの見学の保護者あたりは埋め尽くされていた。今回の訪問の調整をしてくれたMさんも会場にいて、ナオキを見ると感動の声を上げてくれた。彼女にはナオキより1歳年上の娘さんがいて、かつて、幼稚園と延長保育が終わってから私達職員が仕事を終えるまでの1時間ぐらいの間、二人をいつも園庭で遊ばせていたのだ。私たちより1年先に日本に帰国して、その後行き違いでメキシコに戻って来たため、再会はなんと6年ぶり。3歳だった息子が今は9歳。子供達の記憶はあいまいでよく覚えていない様子で、むしろ親同士が再会を喜び、興奮して騒いでいた。ところでメキシコ人は国旗をととても大事にしている、メキシコの学校では朝礼の際に、代表の生徒が国旗を持って行進し国歌を斉唱する。この学校では2つのグループが、それぞれメキシコと日本の国旗を持って行進し、両国の国歌を斉唱するのだが、この日も歌やダンスの発表前に、幼稚園による国旗集会が行われ、ナオキにメキシコの学校の習慣の一部を見せてあげることが出来た。私にとってこの学校は、ナオキと毎日家を出てから二人で通った思い出のいっぱい詰まった場所であるけれど、当時3-4歳だったナオキには、私の想像以上に覚えていないことが多かったようだ。当初は学校に行くのも気乗りしていない様子だったが、朝会後に園舎にお邪魔すると、多くの先生から「大きくなったね」と、驚きの声をかけてもらい、困惑しているような、それでいてまんざらでもないような表情を浮かべていた。建て替えのために、昔の園舎が取り壊されていたのがとても残念だったが、日本の某有名幼稚園を模した素敵な園舎ができるという。いつまでもみんなが誇れる学校であり続けて欲しいと思った。この日は、書店でナオキ向けの本やスペイン語教材を選んだ後、義父母の家に行き、近所のお菓子屋さんでピニャータに入れるお菓子を買った。夕方、母と私は今朝再会した先生たちと夕食をとるため、また学校のそばのレストランに向かったが、ナオキはそのままピニャータを楽しんだ後、おばあちゃんの家泊まった。元同僚たちは、日本よりはスムーズにいかないことが多いメキシコにいて、それでもみんな元気で若々しいエネルギーに溢れている印象を受けた。娘さんが日本の大学に通っていたり、息子さんがメキシコの高校受験に向けて忙しい時期だったり、メキシコシティの治安を心配して、家族で他州への引っ越しを考えていたり、みんなそれなりにいろんな課題はあるようだったけれど、メキシコでたくましく生きている姿が新鮮だった。そして、かつてこんな素敵な仲間と働いていた自分は今、日本

<<国境を越えて>>



で自分がやるべきことをきちんとこなせているのかと振り返る時間をもらったような気がした。息子がおばあちゃんの家泊まりに行ったこともあり、元同僚との夕食後、私は主人と主人のいとこ達と合流し、独身時代に行ったことのある、「Bodeguita del medio」というキューバレストランに飲みに行った。メキシコ人の集団の中に日本人ひとり、という環境はかなり久しぶりで、話についていけるか少し不安がよぎったけれど、いとこの一人が日本に観光で来ることになっていたり、話題が日本のことに及ぶことも多く話しやすかった。そして、家族みんなで家に集まることはあっても、同世代の主人のいとこ達と飲みに行くのは、考えてみたら初めてのことで、私にとっては新鮮だった。夜の12時ぐらいに宿泊先に戻ると、隣人が大ボリュームで音楽をかけ、Pachanga (パチャンガ) **をしている真っ只中であつた。こうして、長くて刺激の多かった一日は、賑やかな音楽とともに更けていった。*Segundo Piso: メキシコシティの南北を結ぶ有料道路。シティには有料の高架道路は一つしかなく、ここからは街全体がよく見渡せる。**Pachanga: パーティのこと。メキシコでは週末に友人達を自宅に招いて、朝まで大騒ぎをすることは珍しくない。また大きなボリュームで音楽をかけていても、お互い様なので文句を言う隣人も少ない。

●ナオキ君(小4)のお母さんからの VOICE■

□家族での船の旅 ~乗客 3000 人と乗員 1000 人の 4000 人をのせて~

日本人の小学生は光太郎だけでしたが、外国人の同じ年ごろの子は何人かいました。乗客は3000人(外国人と日本人が半々位)、乗員は1000人。乗員の皆さんがとても気さくで、安心して過ごせました。どの年代、出身国、趣味、嗜好の人にも楽しめるようなプログラムが用意されていて本当に素晴らしかったです。ゆっくりするという感じではなく、忙しくいろいろと楽しんでできました。今回は長いツアーでしたが、日数少なく、値段も手ごろなものも多いですし他の人にもぜひお勧めです。

◆私の、勤続30周年記念に家族3人で船の旅に行きました。横浜の大さん橋を出発し、鹿児島、中国、ベトナム、香港、台湾、沖縄を巡り横浜に戻るツアーした。小2の長男 光太郎にとっては初めての海外旅行です。それほど一般的ではない船の旅なので、自分の身近に経験者もおらず行く前はどのような事かと心配でしたが、体験してみたの感想は本当に楽しめてとても良かったです。子連れでの旅行は安全面など何かと心配ですが、船の中は安全が確保されているので安心です。子供を預けられるキッズセンターがあり、日本語のわかるスタッフの方がお世話をしてくれます。光太郎は、同じ年ごろの海外の子供達と一緒にゲームをしたり、工作をしたりして楽しんでいました。その間に大人は次から次へと行われる船内のイベント(気軽に参加できるレクリエーションからナイトショー観覧など)に参加して楽しみました。各寄港地では到着して夕方には船に戻らなければならないので数時間の滞在時間でした。光太郎に色々体験させたいと思い、ベトナムではおもちゃを値切って買い物をしたり、香港・台湾では現地のフェリー、二階建て路面電車、モノレール、地下鉄などに乗って観光地に行ったりして楽しみました。世界は広くいろいろな人がいるという事を肌で感じてもらえる良い経験になったのではないかと思います。大人になった時に覚えていてくれるかな~。

●コウタロウ君(小2)のお父さんからの VOICE■

□家族での船の旅 ~印象に残ったこと~

10月26日に台湾で家族とタイペイ 101 というタワーに行きました。タイペイ 101 というのは、前から見たかいだんみたいな形で、500mぐらいの高さです。エレベータがすごく早くて20びょう位で89かいまで行きます。すごく早くてびっくりしました。また行きたいです。 ●コウタロウ君(小2)からの VOICE■

□ラグビーワールドカップ 2019 ~Once in a lifetime experience!~

しばらく遠のいていた英語に触れる機会が欲しいという思いから、8月に国際交流団体の英語ボランティアに登録した。するとすぐに連絡があり、10月にW杯で町田に合宿をするアフリカのナミビア国選手の日本文化体験の際の通訳ボランティアをやらなかつたの依頼があつた。町田市では2015年南アフリカ共和国のラグビーチームが町田に遠征、町田にあるキャノンイーグルスと交流試合をしたのを契機に、スポーツにおける海外チームホストタウンとしての取り組みを進めていて、このナミビア国選手の合宿もその一つだと言う。かつて少しは英語を使って仕事をしていたが、それはかなり昔の話。出産と同時に介護が始まり、どっぷり家族の世話を中心に生きてきたこの約10年。英語に触れるのは息抜きの洋画を見る時くらい。しかもナミビア国についてもラグビーについてもなじみがない。日頃使わない筋力は衰えるのと同じで、英語を使うチャンスがないのだから、訥々としか話せない。こんな私に遠路はるばるやってくる国の代表選手達に失礼のない対応が出来るのだろうか。気楽な英会話サポートボランティアを期待していたのに、最初の仕事がこんな大仕事とは露ほども思わず。甘いな、私。どうしよう。I am not totally ready.正直なところをボランティア代表の方に伝えると「他にベテランボランティアがサポートに入りますから大丈夫ですよ。何より交流は楽しいですよ。難しく考えずにやってみませんか。」という。代表の方の静かな語り口には人柄がにじみ出ている、心惹かれるものがある。またナミビア国を知るための留学生による講演、町田茶道会の講演、そして開催場所の小野路里山交流館での打ち合わせと順をふんで目的の10月2日にたどり着けるといふ。準備期間は約1か月。こんな好機は恐らく私には二度とないだろう。ここは腹をくくり頑張らないと女がすたる!とばかりに怖気づく気持ちを吹き飛ばし、一か月間、選手達におもてなしする茶道について英語、日本語を読み漁り、英会話の勉強を始め、ある程度のインプットをこなして当日を迎えた。当日は晴天の下、開催場所の里山交流館のスタッフ、町田市職員、町田国際交流団体関係者、W杯ラグビー関係者や市民の方達と選手達をお出迎えした。他にニュージーランドや地元新聞の記者達も同席した。まず茶道協会の方の先導によりお茶を召し上がって頂き、その後お点

前を体験、そして地元のうどんも召し上がって頂いた。大阪、名古屋の試合をへて、東京入りしたナミビア国の選手 15 名は、積極的にもてなしの会に参加して下さい。殆どが 20 から 30 代の若者で、茶会では静かに茶道の作法に見入り、着物姿の美しい先生の茶道についての堂々たる説明を、訥々と気合で英訳する私の言葉にもじっと目と耳を傾けて下さっていた。珍しそうにお茶を飲んだ後は、リラックスした雰囲気の中、選手本人が茶筌でお茶を立てる体験もし、その後の食事も終わって、交流館隣の小野神社に選手が参拝する頃には、そこにいた恐らく全員がすっかりナミビア選手



手のファンになってしまっていた。彼らは終始、穏やかで控えめで礼儀正しく、爽やかな笑顔で、真面目な時は真面目に向き合ってくれる。汗をかきかきもてなそうと必死の年長の私達をおもんばかるような優しさを感じ、ラグビーの精神と茶道のこころ「和敬清寂」と響きあいつの調和が生まれたように感じる交流会であった。最後、スタッフ全員で選手達を見送る時は、選手の方から笑顔で握手とお礼の言葉を頂戴した。私は観戦が叶わなかったのだが、その後、強豪ニュージーランドと対戦したナミビアチームは、力の差がありながらも最後まで全力で戦いぬき、東京の試合会場を沸かせたという。短い準備期間ながら、勇気を出してこのボランティアを経験してラグビーが好きになった。そして英語を使うことで平和な世の中を作ることが私にもできるかもしれないと感じた。ワールドカップ、どうもありがとう。●コウタロウ君(小2)のお母さんからの VOICE■

□受験生の冬の過ごし方 ~私立小学校受験へのステップ⑧~

◆小学校受験を検討、または決意された方の多くが年中の夏から秋に準備を始められます。さあ受験準備！お教室に通いだして、お勉強も少しずつ難易度が上がっていきます。あっという間に季節が変わり冬がやってきます。実は、この冬というのは受験準備期間に1度しかありません。夏や秋から準備を始められた方は、もう一度年長の夏と秋がやってきます。ですので、季節に関する体験やお勉強が出来ていなくても何とか取り返すことが出来るのですが、冬は準備しだしてすぐにやってきてしまうので、お勉強ばかりに気を取られていると、大切な冬の行事体験を見逃してしまうことがあるようです。これは、幼児教室の先生もよくおっしゃっていたことです。しかも、冬にはたくさん行事があり、よく試験にも出題されています。冬至にはゆず湯、クリスマスにはクリスマスツリーや教会、お正月には鏡餅に門松、おせち料理、羽根つきやコマまわし、凧揚げ、福笑い。節分には豆まき、いわし、ひいらぎ…などなど…。体験することが目白押しです。今ではあまり見かけないものも常識問題として問われるので経験させるのはとても大変でした。ですが、今までどんどん簡略化していたのですが、実際やってみると結構楽しかったですし、いい思い出になったと感じています。お勉強ばかりで疲れとストレスが子どもにも蓄積していました。季節の行事や体験は、家族で思い切り楽しい時間にして、子どもの笑顔がたくさん見られ、親のリフレッシュにもなりました。本やテレビなどの情報では分からない、生きた体験が子どもの脳裏にもしっかりと刻み込まれたと思います。そして、受験準備でどんなに忙しくても、模試などが無い限りは「石川塾の遠足」に必ず家族みんなで参加しました。体力はもちろんですが、同じコースで四季を感じることができたり、五感を使って色々な自然界の物に触れ合うことができるからです。そして、体験したことはお試験でも自信を持って答えることが出来ていたと思います。子どもには、言って聞かせるより、やはり体験だ！！と身をもって感じました。●リホさん(小2)のお母さんからの VOICE■

□特製 簡易「虎の巻」で漢検準2級にチャレンジ！！ ~苦手な国語…「中学入試国語問題」に取り組む⑦~
【「使える！『徒然草』」齋藤孝著(PHP新書)の要旨要約を終えて】

息子が石川塾に入門していなければ、私はこの本に生涯触らず暮らしたであろう。子供時分、私は国語全般が苦手な、古典にいたっては授業で何を習ったのか、全く覚えていない。それくらい興味がなかった。恥ずかしながら「徒然草」と聞いても、響きとして知ってはいるが、それが何物なのかを明瞭に説明できない。「お母さんもぜひ読んでみてください。」と石川先生に勧められ、しぶしぶ(先生ごめんなさい)手にとってみた。私の場合、ここでやっと「ああ、そういえば吉田兼好という人が書いた随筆だったなあ」と、「徒然草」が何物であったかをようやく思い出す、という情けない具合である。実際に読み進めてみると、なるほど著者の分かりやすい現代語訳と軽快な解説で、「徒然草」の世界観を堪能できた。この夏、息子はこの『使える！「徒然草」』(大きい見出し18個分)の要旨要約を終えたという。立派な成果であると素直に褒めてやりたいと思う。印象に残っている見出し項目ベスト3を聞いてみた。

①第45段「ネーミングと存在感」自身の体験と照らし合わせ、特に印象に残っているという。過去に習い事の宿泊行事(色々な地域から参加者がやって来るため、初対面の人が多い)に参加した際、最初に皆が「自分で自分にあだ名をつける」、ということをしたそうだ。これによって、初めて会う先生や友達があだ名で声をかけてくれたり、面白いあだ名の子はそれだけで存在感があったり、互いに自身のあだ名について由来を教え合うなど、初対面の人ともコミュニケーションを取るのにとっても役立ったらしい。これまでに学校でも友達と関わり合うなかで、お互いにあだ名をつけ合ったりしているうちに友情がうまれたという経験もあるそうだ。

②第193段「自分の得意技を持つ」

小見出しが五つもあって要約は大変だったそうだが、それぞれの小見出しには興味をひかれ、読んでいて面白かったとのこと。得意技があれば、同じ分野を得意とする人と新たに友達になったり、仲良くなるためのきっかけにもなりうる、と感じたそうだ。この見出しを選んだということは、彼自身にも何か得意技があつてのことかと思いきや、その逆で、「自分には今のところまだ得意技が無いので、これから得意技を探さなければならぬ・・・」と消極的な発言だ。焦ることはない。著者も「自分の得意な領域は、二十代後半から遅くても三十代までにつくるべきである。」と記している。時間をかけて「自分の境界(ツボ)」を探して欲しいと思う。

③第52段「三人の先達を持つ」

ここに石清水八幡宮を参拝しようとした和尚の話が出てくる。和尚は人に疑問をきかなかつたので、結局は八

<<千の声 VOICE>>



幡宮を参拝せずに帰ってきてしまった、というオチがとても面白かったとのこと。二つ目の小見出しに「わからないときには人に聞け」とあるが、彼自身も、分からないことがあっても見栄を張って素直に人に聞けない時があるので、「知らないことを人に聞く素直さがいかに大切か！それこそが上達の大元だ！」というメッセージにおおいに感銘を受けたようである。そういえば、今、この段を読んでいて思い出したことがある。もう20年以上も前の話だが、学生時代に住んでいた京都府八幡市で、「石清水八幡宮」なるものが近くにあると聞いたことがあった。が、それが徒然草第52段に登場する「石清水」だと知ったのは、つい今しがたである。残念ながら、結局私はそこを一度も訪れることなくかの地を離れてしまった。著者の言葉を借りれば、『人は案外「自分が知らないこと」に気づいていない』ものなのだなあ。そこを訪れなかったことを後悔しているというよりも、もっと言えば、「当時、色々なことに興味を持って調べてみたり、実際に訪れて感じたり、不得手な分野だからこそ少し強い気持ちで掘り下げてみたりしなかったことそのもの」を、今これを書きながら少しだけ悔やんでいる。息子には、ぜひ「三人の先達」を持って、広い視野とともに悔いのない人生を歩んで欲しいと思う。

【漢検準2級への取り組み】

結果は9点足りずに不合格。結論から言うと、息子は「合格するための日々の努力」をしなかった。本人もそれを自覚しているはずだ。結果を聞いて帰宅した息子に「頑張ったね、惜しかったね。」などと甘い言葉はかけていない。私は不合格という結果ではなく、「前級の際に準備不足を猛省したにもかかわらず、またしても同じように努力を怠った」という事実を怒りを覚えているのだ。反抗期真っただ中の息子は、ここ最近ずっと、私が勉強全般の進み具合をチェックすることを断固拒否している。私が口を挟まないのをいいことに、漫然と過去問を解いているだけで、肝心の復習を疎かにし、合格に向けた努力をしている気配は全くなかった。「自分でできるから！」が彼の言い分なのだが、結果が示す通り、勉強に関して自己管理はまずできていない。受検日が迫ってから、ようやく過去問を解き始めたものの、最初の数回は100点(200点満点)にも満たない。これまでの級では、過去問をやればやっただけ着実に得点が上がったのに、今回はそう簡単にはいかない。これは相当難易度が高いなと思い調べてみると、準2級は「高校在学程度」、年齢別志願者の割合でいえば、7~12歳はわずか0.3%しかいない。確かに、12歳の息子が準2級に合格するのはかなり難しそう。残り約1週間、いよいよ時間が無くなってきたので、見かねて口を挟んだ。改めて解答用紙を分析してみると、何度も出てくる同じ漢字を間違えている。つまり復習を真剣にやっていないのは明らかだったが、それに加え、全体的に難易度が高く、彼の理解の容量を超えてしまっていることもまた事実であった。まともにやっていたのでは時間が足りない。何か作戦を立てなければ！問題の前半部で確実に点を取れるよう、的を絞った。「部首」、「熟語の構成」、「四字熟語」は同じような問題が繰り返し出題されるので、いくつかのパターンだけを確実に覚えてしまえば、得点に繋がる。そこで私は問題をコピーし、簡易「虎の巻」を作成。まず、部首に蛍光マーカーで印をつけ、見ただけでどこがその漢字の部首か分かるよう、視覚的に覚える方法にした。熟語の構成と四字熟語には一つ一つ意味と答えを書き込んだ。いつもは漫画やタブレットをトイレに持ち込んで長居する息子だが、そんな物を持ち込んでいる場合ではない！それらは取り上げ、代わりにこの「自家製虎の巻」を手渡してみた。そのかいあってか(!?)、グッと得点は伸びたものの、何度やっても130点台をウロウロ、なかなか140点(合格点)に届かない。結局、そのままの結果に落ち着いたという訳だ。それ故、結果を聞き「やっぱりね・・・」という気持ちと、「あともうちょっとだったのか。あと数日あって、あれとこれに手を付けていれば合格したかもしれない」、という気持ちが入り混じって複雑な心持ちだった。漢検は再チャレンジできるが、中学受験は一発勝負！「これが中学入試本番でなくて良かった」というのが私の正直な気持ちである。受験本番まで残り41日(執筆時点)。ここから先は本人の努力を信じ、サクサクことを祈るのみである。

●ソウシ君(小6)のお母さんからの VOICE ■ドイツから日本へそして世界へ

口東日本大震災と私① ~東北大学入学から卒業まで~

「めちゃくちゃ都会だ。東北って田舎じゃなかったの。」それが、初めて仙台に着いた時の感想だ。死ぬほど勉強をした一年の浪人生活を経て、念願の東北大学理学部物理学科に合格をした。はじめての一人暮らし。知っている人が誰もいない場所。そんな新しいこと尽くめの生活に結構ワクワクドキドキしている自分がいた。しかし、そんな思いは日々の生活の中で薄れていった。大学生活は淡々と過ぎていった。特に大学一年生の授業は全くもって面白くなかった。内容もさることながら、教える先生たちもどこか機械的であった。それもそのはずだ。高校生までの勉強は決まったものを覚えることが勉強であった。大学は勉強する場所ではなく"研究"する場所だったからだ。未知の分野を自ら調べて学んで切り拓いていくのが、研究者たるものである。そんなことがわかったのは随分と後になってからだった。そもそも何で東北大学で物理を学ぼうと思ったのか。あまり話したことがない頭の中を書いてみる。野球に明け暮れた日々がサイレンの音と共に終わりを告げた。涙が枯れ果てるくらい泣いた。やりきったのだ。さて、次に向けてがんばろう。と、そう簡単に切り替わるわけではない。進路を決めなければいけないのだが、いかんせんやる気がどこにも向かないのだ。それでも進路を決めなければならぬ。ゆっくりだったがとにかくにも大学に行くことは自分の中で決めた。あとは、どこに行くか…。当時の自分が一番興味があったことの一つが、宇宙であった。どうやって宇宙ができたのか。人間のはじまりはどうなっているのか。人は死んだあとどうなるのか。真理といわれるものを知りたいと思っていた。他にも、一人暮らしをしたいという理由もあった。色んな思いが相まって東北大学理学部に進路を決めた。今だから言うが、その当時の成績たるや目も当てられないくらい悲惨だった。志望していたのは物理学科であったが、センター試験の模試では一問もまともに解くことができないほどだった。さて、大学生活に話を戻してみる。杜の都と呼ばれる仙台は、駅から離れれば離れるほど緑が豊かな所だ。大学のキャンパスは周り

に何も無い山の上にある。研究に没頭するには最高の環境だ。そんな最高の環境でボクが研究しことを早口で書いてみる。ホウ化テルビウムという物質がものすごい低い温度の時にどんな状態になるのか、というものだ。まず、この結晶を作るのがなかなか大変なのだ。粉末を混ぜ合わせて、特殊な装置で焼くのだが、焼いている時に見守り続けなければならない。その時間なんと30時間以上かかるのだ。そして、測定もなかなか時間を要する。一つの測定が終わるのに5日間もかかるのだ。その間に機械が壊れて、必要なデータが取れずやり直したりと色んなことが起こった。そんな地道な作業を通してやっとこさ研究が完成しました。これを読んでいる方たちでこんなことを思わないだろうか。この研究は何の役に立つのだろうか。結論は…何の役にも立たない(笑)このように研究生活にだけスポットを当てると地味でしかないのですが、過ごしやすくまた季節を感じることができる都市でした。そんな、都会と自然が調和した素晴らしい地に悲劇が起こったのはボクが大学二年生の時だった。2011年3月11日14時46分。●トモミ先生からのVOICE■

口石川塾の遠足① ~10/27 葉山から鎌倉 磯遊び…貝や石を拾い…3万5000歩~

石川先生と、子供のお友達家族との6名での遠足。他の参加者がいないということで…と、私の我儘で葉山からスタートのコースに変えて頂きました~♪まずは逗子からバスで葉山へ。私の大好きな葉山の海は曇り空のためどんより…海の色もくすんで見えました。ですが、そんな事は子供達には関係なく早速磯遊びが始まりました。小さな魚やヤドカリがたくさんいます！よくよく見ると蟹もいます！！まだ遠足のスタート地点に立ったばかりということをお忘れ、夢中で蟹を捕まえようとする子供達と蟹を次々見つけ追いかける大人たち…蟹を捕まえ写真におさめ、小魚を追いかけていると早くも子供達は膝までビショビショに…気がつく少し離れた岩場で先生が見守って居て下さいました(^_^;)遠足はこれから~！先に進むよ~！！と自分と子供達のお尻を叩き岩場をあとにしました。砂浜からの景色を楽しみ、貝や石を拾いながら進む大人と…波打ち際を歩いていたはずが、どんどん深みにはまっていく子供達。進む度膝から腿、腿からお尻までビショビショになりながら歩きました。途中、休憩の時間も大人は腰を下ろしますが子供達はおやつもそこそこに岩場へ走って行きました。笠摺港防波堤の広い場所でお弁当を食べる頃には日が射して暑く感じるほどのいいお天気になりました。お弁当と甘いものもお腹に入れてしっかり充電してから、ベンチにビショビショズボンの可愛いお尻の後を残して進みます。逗子海岸を進み、逗子湾を眺めここからはハイキングコース！所々ぬかるんだ足元を慎重に歩いていると子供達の『リスだ！！』の声。見上げた木の幹にチョコチョコと動く台湾リスが♪思いがけない出会いに子供だけでなく、大人も大喜びです。ほっこり幸せチャージしてまた歩きだします。丘の上の披露山公園では孔雀に兎、猿達が待っていてくれました。素敵な景色、美味しい空気を胸一杯吸い込みます。ここからは下り道、高級住宅街を抜けて小坪漁港へ…お寺を巡るあたりから大人がしんどくなってきました~。だんだん口数が少なくなり、真顔になってきます…が、何しろ先生が健脚なので必死で着いて行き、皆鎌倉まで頑張りました~！！今回の遠足、万歩計で測っていたお友達ママが家まで帰ると3万5000歩だね！！子供の足だと4万歩行ったのでは！？と！！息子はお友達と一緒にだったので、ランナーズハイならぬ…遠足ハイ！？(^_^;)で頑張れたのだと思います。愚痴も言わず、よくよく歩きました！付き合ってくれたお友達に感謝です。頑張った子供2人、先生にお土産を頂きご機嫌で帰りました。ありがとうございました！！遠足の度に毎回思うこと…本当に先生は色々な意味でスゴい~！！もしかしたら先生の体の中には少し小柄の3~40代のマッチョマンが入っているのでは…と本気で思う今日この頃…今回もお世話になりありがとうございました！！●ヒロト君(小4)のお母さんからのVOICE■

口石川塾の遠足② ~12/8 逗子から片瀬江ノ島 石川先生とでない観られない逗子界隈の遠足…3万3000歩~

「空はピーカンです！！」と云われた石川先生の満面の笑みによく合う、雲一つない晴天に恵まれた逗子湾~片瀬江ノ島の遠足。穏やかな波の逗子湾で貝殻を拾い、披露山公園で富士山を拝み、昼食は名店「めしやっちゃん」でお腹を膨らまして本番の後半戦へ。空気の澄んだ住吉城址跡・住吉隧道で一呼吸。途中休憩をしながら、4時間、歩いて歩いて歩いて…。子供達の前では気丈に振る舞うが、6か月振りの遠足に自分の足はフラフラ。だが、落ちていく身体とは別に、目に入る、秋を終える景色の美しさ、波に打ち上げられたエイやサメ、そこだけ時間が止まっているかの竹まいの浄土宗大本山光明寺…、気持ちはもっと先を観たがった。地元石川先生とではないと観られない逗子界隈の遠足。家族4人、元気に参加できたことに感謝！子供達と一緒に遊んでくれた中学生2名のお姉様方に感謝！！●サワちゃん(小1)コウヘイ君(年中)のお母さんからのVOICE■



10/27 真名瀬海岸(昼)



12/8 逗子海岸(朝)



12/8 片瀬江ノ島海岸(夕)

<<石川塾の肝心要 ~要旨要約~>>

□石川塾の肝心要 ~自分で生きていくための要旨要約~

皆さん要旨要約をご存知ですか？石川塾では授業の前に要旨要約をやります。まず全体を通してどういった物語なのか20字程度で書きます。そして具体的に、またこの物語が伝えたかったことを200字で書くというものです。石川塾では夏目漱石の夢十夜の第一夜が最初の題材です。この物語は男が死んだ女を100年待つ話とでもいしましょうか。すごく独特なお話で初めの題材としては難しいかもしれませんが。ただ慣れてくるととても面白いものになります。まず自分では手に取らないような本を読めてそれが知識に繋がりがそこから大切な部分を抜き出しそれが取捨選択の上達に繋がります。また本から学ぶことは沢山あります。例えば私がすごく考えさせられた題材は“人にはどれだけの土地がいるか”という物語です。自分が歩いた分だけ土地をもらえる、そのかわり夕暮れになるまでに歩き始めた場所に戻って来ることが条件というお話です。この物語では人の強欲さがわかりやすく描いてありとても読みやすく考えさせられるものになっています。沢山の本を読み自分の考え方が変わることさえあります。すごく自分にとってプラスになるもので石川塾ならではの。物語以外にも論文のようなものもあります。論文といってもそんなに堅苦しいものではなく私たちの生活をよりよくしてくれることが書いてある参考書みたいなものです。齋藤孝の本です。この本で私の考え方はガラリと変わりました。“やるべきことはやろうと思ったらすぐ行動する”私はこれを読むまでギリギリまでやらずにいた人間でした。さらにやるまでにすごく時間がかかっていました。けれどこの本にやろうと思ったらとりあえず体を動かし始めるといいということが書いてあったため実践してみるとすごくやる気になりました。こんな本も要旨要約します。悪い習慣や自分の考え方が変わり要旨要約の力がつくなんて一石三鳥くらいありますね。石川塾では勉強だけでなくこういった力もつけさせてくれます

●マイ先生からの VOICE■

□石川塾・塾生の200字要旨要約文(齋藤孝『理想の国語教科書』青版/赤版/緑版より)

■夏目漱石「坊ちゃん」

一文要約:江戸っ子の自分が田舎の中学生にいたずらをされ、説教をしていたが、やりこめられる話。

本文抜粋:おれが寝るときにとんと尻持ちをつくのは子供の時からの癖だ。ああ愉快だと足をうんと延ばすと、なんだか両足へ飛びついた。蒲団の中から、バツタが五・六十飛び出した。ようやくのことに三十分ばかりでバツタは退治した。おれはさっそく寄宿生を三人ばかり総代に呼び出した。「なんでバツタなんかおれの床にいられた」「バツタた何ぞな」「バツタたこれだ…」と言うと「そりゃ、イナゴぞな、もし」と生意気におれをやりこめた。●ソウシ君(小6)の要旨要約■

■坂口安吾「風と光と二十の私と」

一文要約:教員が、ほかの生徒をそそのかした生徒に、悪い事も善い事も自分一人でやりなさいと叱る話。

本文抜粋:彼は泣き出した。牛乳屋の落第生におどかされて、学校の隣の文房具屋で店先の鉛筆を盗んだのである。牛乳屋の落第生は悪いことがバレて叱られそうな気配が近づいているのを察するとひどくマメマメしく働きだすのである。「かんべんしてやる。これからは人をそそのかして物を盗ませたりしちゃいけないよ。どうしても悪い事をせずにいられなかったら人を使わずに、自分一人でやれ。善いことも、悪いことも、自分一人でやるんだ。」●ナツネさん(小6)の要旨要約■

■新美南吉「疣」

一文要約:田舎で仲良く遊んでいたはずのいとこ・克巳に、町に戻ると見知らぬ顔をされる話。

本文抜粋:兄の松吉、弟の杉作の家へ町からいとこの克巳が遊びにきたのは去年の夏休みのことでした。笑ったりして、町へ帰っていったのでした。餅を克巳家に配っていくことを約束して家を出ました。「ただいま」克巳でした。克巳は松吉をそれから杉作と顔を合わせました。しかし克巳の眼は知らない人を見るように冷淡で階段をのぼって二階へあがって、下りてきませんでした。克巳の友だちらしいのがふたり、松吉はつきおとされたように感じました。克巳に知らぬ顔をされました。●ミオさん(中1)の要旨要約■

■ドストエフスキー「罪と罰」

一文要約:ラスコーリニコフが老婆とリザヴェータを殺したことをソーニャに打ち明けたが、ソーニャは見捨てていなかった話。

本文抜粋:ラスコーリニコフが老婆だけを殺すつもりだったが、リザヴェータも殺してしまったことをソーニャに打ち明けた。ソーニャは「あなたより不幸な人は世界中にいませんわ!」といいラスコーリニコフをみすてなかった。ソーニャは「自分の罪をつぐなう、それが必要なのです」というがラスコーリニコフは嫌がる。ラスコーリニコフは未決に入られたら面会に来て、監獄に入ったらこないというのを約束した。ソーニャは「いっしょに十字架をせおみましょうね」といった。●ヨシマサ君(中1)の要旨要約■

■ガルシア＝マルスケ 鼓直訳「百年の孤独」

一文要約:ホセ(アルカディオ・ブエンディア)が次々とお金を払い氷にたいして「こいつは、近來にない大発明だ。」と証言する話。

本文抜粋:ホセはお金を払ってテントの中までいった。ホセが氷塊へ手を伸ばそうとすると、大男は「さわりたいけりゃ五レアル出いな。」ホセはお金を払った。それから氷に手をのせ喜びではちきれそうになっていた。彼はさらに十レアルのお金を払って子供達にすばらしい経験をさせようとした。アウレリャノは一步前に進み出て氷に手をのせ「煮えくり返ってるよ、これ。」彼はもう一度五レアルのお金を払って氷塊に手をあて証言でもするように叫んだ。「こいつは、近來にない大発明だ。」●リタさん(小6)の要旨要約■

※()内は提出時の学年です。

子ども・お母さんたちが借りて読んでいる本 (2019年3月～2019年5月)

2019年3月

ひなちゃんとふりかえる平成史
 ビーおばさんとおでかけ
 チョコレート工場の秘密
 ウォーリーをおえ！タイムトラベラー
 平家物語 上・下
 日本語プリント 百人一首編
 ややこしや じゅげむじゅげむ
 スイーツ駅伝
 なんかへんな生きもの
 日本の歴史①日本の誕生と米作り
 死んだらどうなるの？
 「のび太」という生きかた
 おしりたんてい かいとう VS たんてい
 おしりたんてい いせきからのSOS
 世界の歴史①
 内臓とこころ
 実語教
 わけあって絶滅しました
 大和、出撃せよ
 月2万のふたりごはん
 生命とリズム
 せつないどうぶつずかん
 ぶんめいのめいろ
 みけねこたんていだん
 新型ウイルスのサバイバル②

2019年4月

続々ざんねんないきもの事典
 新型ウイルスのサバイバル
 世界の歴史①メソポタミアとエジプト
 「のび太」という生きかた
 なんかへんな生きもの
 あなたのいえ わたしのいえ
 ぼくのいまいるところ

ふゆのほし
 とけいのほん①
 こねてのぼして
 せいめいのれきし
 あかしろあおいち
 上機嫌の作法
 あいうえおでんしゃ
 ころちゃんはだんごむし
 だれでも書ける最高の読書感想文
 齋藤孝の速読塾
 誰からも「わかりやすい」と言われる
 大人の伝え方
 働く気持ちに火をつける
 偉人たちのブレイクスルー勉強法
 中原の昴①②
 珍妃の井戸
 0歳児がことばを獲得するとき
 子どもはことばをからだで覚える
 中原の昴③④
 恐怖のお話魔
 わけあって絶滅しました
 りゅうがあります
 いちねんせい
 どうぐ
 せんろはつづく どこまでつづく
 こども 孫子の兵法
 カブトムシ・クワガタムシ
 はしれ かもつたちのぎょうれつ
 てとてとゆびと
 りかやさんすうがすきになる
 1・2年生のよみもの
 2年生のよみもの
 津波の霊たち
 三陸海岸大津波

関東大震災
 昆虫世界のサバイバル
 おしりたんてい
 あやうし おしりたんてい
 ウォーリー ふしぎなたび
 おしりたんてい いせきからのSOS
 続々ざんねんないきもの事典
 チンチン電車と女学生
 ゼットイこれだけ！名作教室
 おしりたんてい むらさきふじんの
 あんごうじけん
 おしりたんてい ふめつのせつとうだん
 いちまるとはじめよう！

わくわく漢検10級
 頭のよい子に育てるために
 やみよにきえる きょじん
 やばい日本史

2019年5月

子どもと声に出して読みたい実語教
 こども「学問のすすめ」
 嵐の中の灯台
 三陸海岸大津波
 科学のドアをノックする
 ムーミン谷の彗星
 死者の学園祭
 生命①
 清水義範の作文教室
 清水義範のはめはめ作文道場
 作文ダイキライ
 ざんねんないきもの事典
 完本 文語文
 新潮日本古典集成 本居宣長集
 頭のいい子が育つ本棚
 ゼットイこれだけ！名作教室

目ばらい石川ライばらい目

石川先生が読んだ2019年一番の本を紹介します

(すべて貸し出しています)

❗一番よんだ本「ヤマザキマリ」さん！「テルマエ・ロマエ」全6巻(第3回マンガ大賞/第14回手塚治虫文化賞短編賞/芸術選奨文部科学大臣賞)／「スティーブ・ジョブズ」全6巻／とり・みきと共著「プリニウス」1～8巻／「オリンピア・キュクロス」①②③／「世界の果てでも漫画描き」①キューバ編／「世界の果てでも漫画描き」②エジプト・シリア編／「世界の果てでも漫画描き」③チベット編／「モーレッツ！イタリア家族」／「イタリア家族 風林火山」(以上コミック)／「国境のない生き方」／「仕事にしばられない生き方」／「ヴィオラ母さん」／「男子観察録」／「パスタざらい」／「地球生れで旅育ち」／「偏愛ルネサンス美術論」／「リスボン日記」／「望遠ニッポン見聞録」❗一番うまい本「内田洋子」さん！「モンテレージョ小さな村の旅する本屋の物語」／「対岸のヴェネツィア」／「十二章のイタリア」／「ボローニャの吐息」／「ロベルトからの手紙」／「イタリアからイタリアへ」／「イタリアの引き出し」(以上単行本)／「ジーノの家」(講談社エッセイ賞/日本エッセイスト・クラブ賞)／「ミラノの太陽、シチリアの月」／「カテリーナの旅支度」／「皿の中に、イタリア」／「どうしようもないのに、好き」／「イタリアのしっぽ」(以上文庫本)／「パパの電話を待ちながら」(翻訳本)❗一番ないた本「堀川恵子」さん！「死刑の基準～永山裁判が遺したもの～」(第32回講談社ノンフィクション賞)／「教誨師」(第1回城山三郎賞)／「原爆供養塔～忘れられた遺骨の70年～」(第47回大宅賞受賞)(以上単行本)／「チンチン電車と女学生～1945年8月6日・ヒロシマ～」／「裁かれた命～死刑囚から届いた手紙～」(第10回新潮ドキュメント賞)／「永山則夫～封印された鑑定記録～」(以上文庫本)❗一押しの本「最相葉月」さん！増崎英明と対談「胎児のはなし」(単行本)／「ピヨンド・エジソン～12人の博士が見つめる未来～」(文庫本)❗一押しの本「河合香織」さん！「選べなかった命～出生前誤診で生まれた子～」(第18回新潮ドキュメント賞/第50回大宅賞)(単行本)／「ウスケボーイズ～日本ワインの革命児たち～」(小学館ノンフィクション賞)(文庫本)❗一番面白かった本(783ページ)！第18回小林秀雄賞受賞作品・平山周吉「江藤淳は甦える」(単行本)❗最もグイッと(気骨ある)本「フレイティみかこ」さんの3冊！「アナキズム・イン・ザ・UK～壊れた英国とパンク保育士奮闘記～」／「子どもたちの階級闘争～ブローケン・ブリテンの無料託児所から～」(新潮ドキュメント賞)／「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」(本屋大賞ノンフィクション本大賞) ■ KEEP ON SMILING

アンとア+のものがたい(成長日記)

☆アン:読書・新体操・バレエに打ち込む小学校2年生

【漢字検定9級合格!!】

漢検9級合格に向け、漢字を一通り学習し残り一か月は毎日コツコツ過去問を1回分ずつ取り組み、見事144点で合格。過去問はほぼ満点を取れるようになっていたので、試験も手ごたえを感じているようでした。漢検の今年の目標がクリアできたので、一旦進めるのを止めていたくもん算数の次学年の3年生、国語の3年生の学習をスタート。同時に学年の先取りのおさらいのため、清風堂の算数プリント・上級も1日1枚取り組んでいます。英語も、英検3級・アセット1級の学習を再開。石川塾のチャレンジ!で3ヶ月ほどかけて百ます引き算クリア!!現在、朗読暗唱と百ますかけ算、学年の漢字書き取りの合格に向けた学習に力をいれています。娘のこれまでの傾向を考え、検定などは1つずつチャレンジすることで、準備や気持ち余裕が持てそれが合格に繋がっていると感じています。次は、アセット・英検3級のテストに向け本腰を入れていこう!!

☆ア+:折り紙・切り絵・お絵描き・工作が大好きな5歳年中さん

【計算に目覚めた!!】

足し算、引き算も自分で問題を作って答える…といったブームが次女に到来…。車の中でも、幼稚園の送迎中でも、お風呂でも…。姉のかけ算カード練習もまねて、九九も言えるようになって…。まあ、概念は分かっているのですが(笑)塾のプリント学習も、最近はさんすうが大好きで、ひらがなは…「を」以外はだいたい書けるようになったので、練習がつまらないのか、算数プリントばかりやりたがる。もちろん国語プリントも取り組んでいます…。計算タブレットでひとり遊んでいたり、かけ算すごろくも好きで、我が家のお風呂上がりの定番になっている。さんかくパズルやパターンブロックなども好んで遊んでいるので、おそらく今次女は…さんすうの「敏感期」かな。

アンが読んでいる本

『学研マンガ NEW 世界の歴史7 フランス革命と産業革命』

漫画:東 園子 監修:近藤二郎 学研プラス

『マジックツリーハウス2 女王フテピのなぞ』

作:メアリー・ポープ・オズボーン 訳:食野雅子
メディアファクトリー

『チョコレート戦争』

作:大石 真 絵:北田卓史 理論社

ア+に読んでいる本(ア+が読んで欲しいもの)

『じつちよりのふゆのみち』

作/絵:かとうあじゅ 文溪堂

『14 ひきのあさごはん』

作/絵:いわむらかずお 童心社

『5のすきなおひめさま』

作:こすぎさなえ 絵:たちもとみちこ PHP 研究所

『ゆきうさぎのねがいごと』

絵:レベッカ・ハリイ 訳:木原悦子 世界文化社

パパ日記 パパ負ける

小学校2年生ともなると学校で教わったり自分で本を読んだりしていろいろなことを知っていく。こちらが知らない場合もあり、長女から「えー、パパ知らないのー?」と言われ「パパだって何でも知っているわけではないからね、あなたから教わることだってあるよ」ともっともらしい言い方で返してみる。あるとき将来になりたい職業の話をしていて「モデル、薬剤師さん、お医者さん、ヴェト***かな」と言うので、「ヴェト***って?」と聞くと「Veterinarian! 獣医さんだよ、英語習っていたのに知らないの?」。すみません、パパの辞書には入っていません。娘の成長を感じて嬉しい反面だんだん手強くなってきたなと感じる。年中の次女にも驚かされたことがある。図形のおもちゃで遊びながら何かを言っているがよく聞き取ることができない。よくみると三角形のおもちゃを持っていて何回か聞いているとわかってきた。「Triangle」。パパは triangle じゃなくてトライアングルと発音してくれないと聞き取れないようだ。どうやら英会話教室の効果はありそうだが成長してもその発音を維持してもらいたい。

からだをつくる・やすめる ~お尻歩きエクササイズ~

冬は寒さから身を守るため、体に脂肪がつきやすい季節といわれています。外は寒く、ウォーキングやランニングなどもちょっと…躊躇してしまいますよね。でも、あきらめず出来ることをやってみる。今回ご紹介するのは、「お尻歩きエクササイズ」です。テレビを見ながらでもできますし、場所も選びません。子どもと競争しても楽しいかも…。これで、骨盤周りの筋肉がほぐれ、骨盤のバランスが整えられます。骨盤は上半身と下半身をつなぎ全身のバランスにも関係します。楽しみながら、楽に…体をまっすぐに!!

【「お尻歩き」の方法】

- ① 足を前に伸ばして床にすわる。(痛い場合はヨガマットなどを敷いてから…)
- ② 膝は多少曲がってもいいが、腰や背中が丸くならないようにお腹を引き上げて、背筋を伸ばす。
- ③ 軽く両腕をふりながら、左右のお尻を交互に動かして前へ進む。次に後ろに戻るようにお尻を交互に動かす。
- ④ 前に10歩進んだら、後ろに10歩戻る。
- ⑤ なるべく前後の動きのバランスは同じになるようにする。
- ⑥ はじめは3~5往復をおススメ。慣れたら増やします。



(公財)日本数学検定協会認定資格「幼児さんすうインストラクター」

◎プロフィール◎

- ★講師:わたなべ みつき
- ★2児の母(小学2年生…小学校受験 年中…幼稚園受験 女の子2人)
- ★他に看護師国家資格あり 大学病院・療養型病院に勤務経験
- ★石川塾に5年前から親子で通塾し、石川塾長のノウハウを教わる
- ★石川塾にて「ワークショップ」「Weekly・Monthly」「千の声 VOICE」を担当
- ★子どもに教えているうちに、教えることが楽しくなり上記資格取得のためインストラクター養成講座を受講し「幼児さんすうインストラクター」となる

- 「就学前準備～読み書き算数・思考力～」基礎から丁寧に
年少から…はじめは親子で…慣れたらひとりで
月曜・金曜 午後3時～5時 (小学生も教えています)

◆石川塾では小学校に入学したときに、教科学習にスムーズに取り組めるように「かず」「りょう」「かたち」の概念が理解できるところから「すいり」まで、**学習の基礎を丁寧に**教えていきます。また、子どものつまずきや、理解度に合わせた指導をしていきます。「面白い!」「楽しい!」の声が出るように!「なんでこうなるの?」「どうやって考えたらいいの?」と興味関心が高まり次のステップに自ら挑めるように!!さんすうインストラクターの知識と子育ての経験を活かし子どもたちの「考える力」を身につけられるようサポートさせていただきます。

- 「絵本の読み聞かせ+読み書き算数ファーストステップ」
親子で2歳～未就園児講座・午前クラス
- 「小学校受験サポート」年少から・時間はご相談ください



生徒募集中! 紹介者には謝礼あり!

体験授業は3回無料です。まずは授業体験を…お待ちしております。
お問合せは…TEL042-710-5768 読み書き算数 石川塾
担当:ワタナベミツキ



<就学前の学習の様子>



<さんかくパズル>



<ひらがなのお勉強>



<けいさんのお勉強>

<<読解力をつける 読み書き算数 石川塾 からの VOICE>>

□教室で読書タイムを毎回 15～20 分サービスしています/本好きになる!「おもしろい本」をイッキに読もう
▲読書タイム専用の国語のノート(10ミリ方眼)を御用意ください▲ポイントが貯まると図書カードと交換▲

□土曜(月1～4回)開講しています(申込受付中!いつでもコールください/☎042-710-5768)

1/4・11・18・25 (土) 2/1・15 (土) 午前:10:30～12:30(2時間)/午後:3:00～5:00(2時間)

□月謝値下げしています

月(4週)10時間超月謝割引(5%～30%引き)通常授業と冬・春・夏期講習等と合わせてご利用になれます

□10時間超月謝 5%引き

□20時間超月謝10%引き

□30時間超月謝15%引き

□40時間超月謝20%引き

□50時間超月謝25%引き

□60時間超月謝30%引き

□トウタ先生の公立中高一貫校・中学受験対策 ～中学受験生/高校受験生の理科社会～

東京都・神奈川県公立中高一貫校志望者の授業ほか/中学受験・高校入試の理科社会/金曜 pm6:00～

□マイ先生の都立高校入試問題(数学・英語・国語)対策 ～中学生・高校受験生/高校の数1・A～

町田市内の中学へ通い都立高校へ進学希望する生徒の定期テスト対策及び入試問題の演習解説

□トモミ先生の会いに行くスマホ通信学習大学受験対策 ～高校生・大学受験生・大人～

スマホによる通信学習で高校の数学理科英語を教えます/(オプション)メルマガ通信&会いに行きます

□石川塾長の国語力(読む・書く・生きる力)をつける授業 ～幼稚園生から中学高校大学受験生・大人まで～

保護者の方の希望をお聞きしながら学習計画を一緒に考えていきます。だれにも「暗記力」「計算力」「作図力」「ノート力」「作文力」「読解力」をつけ「自ら学習する力」「将来を切り開く力」をつけていきます

□語彙力・読解力・記述力をつけます □国語・算数・数学・英語

□2019年度/漢字検定/算数・数学検定/英語検定/ほか

□石川塾で□受験日を決める! □練習する! □合格する!

[漢字能力検定](漢検)

□2020年□2/8(土)□受付・会場□石川塾

[算数・数学検定](数検)

□2020年□3/7(土)□受付・会場□石川塾



□塾の遠足「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

●わが子と歩む/わが子と遊ぶ/わが子の歩み/わが子に学ぶ/鎌倉逗子葉山だれもしらない土の道を歩く/塾の遠足はほぼ毎月家族友だち知人どなたでも参加できます/2歳からの読み書き算数塾・大人のための石川ゼミ/本がいっぱいの教室/夢中な本/午前・午後・夜間いつでもお越しください/お友達の写真はホームページでご覧になれます ■「千の声ボイス」検索■

□はじまり(脱いだ五足の靴のお母さん方と)

●読み書き算数塾・石川ゼミに親子で入塾し、石川剛先生から勉強だけでなく、子育てのヒントやからだを作ることなど多岐に渡る教えを頂戴しております。石川塾長を慕い集まってくださった私を含め5名のお母さまとともに石川ゼミで出会った沢山の VOICE を発信したいと思い立ち上がりました。この千の声を手に取ってくださった方のお役に立てていただければ幸いです ■編集長・渡邊光樹からの VOICE■

□ホームページの「new 体験学習ガイド」欄にミツキ先生の「weekly・monthly」を掲載していますので御覧ください

□石川塾長に「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

●久美堂書店・本店のみなさんありがとうございます●投稿された皆さま引き続き原稿をお願いします ■絵:kumi

●編集兼発行人・石川剛からの VOICE■●新年あけましておめでとうございます/「千の声 VOICE 新年号」「胎児のはなし」をお届けしました/いかがでしたか/春号は赤ちゃんが言葉(母語から外国語まで)をおぼえるしくみを紹介していきます

□<2020年新年号「千の声 VOICE」第7号>令和元年12月25日発行 ■HP「千の声ボイス」にバックナンバーを掲載

■〒194-0021 町田市中町1-30-8 菅井町田ビル2F/町高通り・税務署近く ■☎042-710-5768